

突然の心停止への対応

大分合同新聞(2024.10.11)論説の抜粋

「AED 活用が救命の鍵握る」

突然目の前の人我倒れたらどうしますか。

全国で毎日200人以上が突然の心停止でなくなっている。救急車の到着前に心肺蘇生とAEDで救護すれば、救命率は格段に高まる。AEDを使える環境を整え、一人でも多くの命を救いたい。

AEDは心停止のけいれん(細動)を電気ショックで取り除き、正常なリズムに戻す。電源を入れ案内に従って両胸に電極パッド貼ると、自動で心電図を調べ電気ショック(除細動)の必要性を判断。不要な場合は動作しない。県内には2700台設置されている。

学校現場やスポーツ行事の主催者には設置場所の確認や手配など事前の備えを求めたい。

県内では、23年に心停止した340人のうち241人(70.9%)に市民が心肺蘇生した。AEDを装着したのは57人(16.8%)、除細動が必要と判断し実施したのは7人(2.1%)

心停止後、何もしないと1分ごとに7～10%ずつ救命率が低下する。県内の23年の救急車の到着時間は9分24秒。到着までの救護措置の有無で生死や後遺症に大きな差が出る。

市民が救護措置をする際、人の生死に関わる事への不安やAEDの操作に対する抵抗感、男性が女性の体に触れる事へのためらいもあるだろう。日頃から日本赤十字社や消防本部等が開催する救命講習会に積極的に参加し、繰り返し学ぶ事で自信が持てるようになるはずだ。

総務省消防庁によると、1カ月後の生存率は救急車出動依頼だけだと6.6%だが、通報と心肺蘇生で9.6%、AEDで除細動した場合は50.3%まで高まる。AEDの使用が市民に解禁されて20年間に全国で8000人以上の命が救われている。

突然の心停止は誰にでも起こりうる。現場に居合わせた人の初動が救命の鍵を握る。

